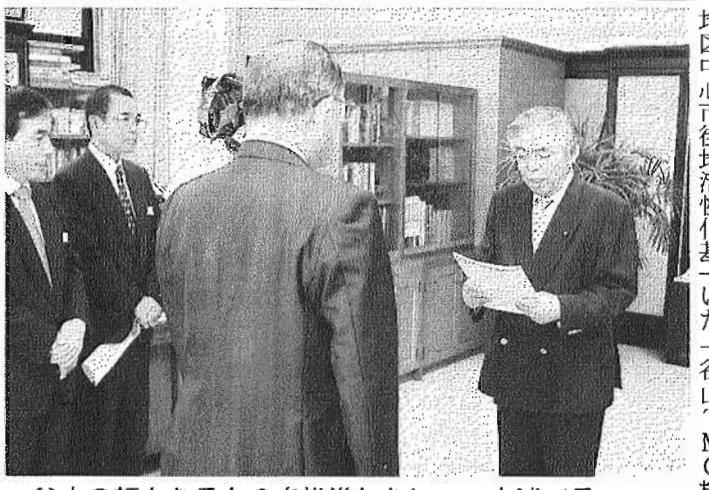
鹿児島市にTMO構想申請

130ヘクタールで24事業盛る

谷山商工会



谷山の顔となるものを推進したい――と述べる脇田会長＝鹿児島市役所市長室で

谷山商工会（脇田幸一会長）が「鹿児島市谷山地区中心市街地活性化基本計画」に基づいて13年度より策定作業を行っていた「谷山TMO構想」の報告書がこのほど完成し、4日、鹿児島市へTMO構想の認定申請を行った。

市長室で行われた認定申請式には、脇田会長が「今回の機会を逃す訳にはいかない。駅前リニューアルと併せた整備を行い、谷山の顔となるものを推進していきたい」と述べ、赤崎義則市長に報告書を手渡した。赤崎市長は「谷山は16万人が居住する鹿児島市の副都心。一つの自治体が二つのTMOを推進することは珍しいが、地域と当委員会が一体となって実現に向けて努力してほしい」と言葉を寄せた。

今回のTMO構想は、谷山の独自性と創出の現実に向けて中心市街地全体をショッピングモールに見立て魅力あるまちづくりを目指すもの。谷山地区約130㌶を対象区域に設定し、国道225号沿い1800㍍約46㌶を重点区域と位置付け、谷山駅周辺地区リニューアル整備事業計画や共同店舗整備事業、空き店舗対策事業、共同駐車場整備事業など合計で24事業を盛り込んでいる。

申請を受けた鹿児島市は6月中の認定に向けて作業を進め、認定後には谷山商工会が推進事業団体として事業を進めていくほか、TMO構想に盛り込まれた高度化事業を具体的に実施しようとする場合は、経済産業大臣の認定を受けた上で高度化事業に向けて取り組むことになる。

県建設業協会指宿支部安全研修会

災害防止の重要性学ぶ

県建設業協会指宿支部（小牟礼純哉支部長）は4日、指宿市のふれあいプラザなのはな館で、員約80人が出席して14年度安全管理研修会を行った。同日は、安全講話や同僚の体験談等があり、出席者は労働災害の撲滅、交通事故防止の重要性について再認識した。

研修会は、建設業の3大労働災害の絶滅を図るため、「繰り返すな労働災害、繰り返そう安全衛生教育」をスローガンに、支部会員の安全管理に対するモラルの向上と現場での周知徹底を図る目的で、例年実施している安全衛生管理週間の講習会と併せて実施した。

開会に先立ち、小牟礼支部長が「今日学ぶことを今後の現場での実践に生かしていただきたい」と挨拶。続いて、重機を利用する際の災害防止映写の後、鹿児島労働基準監督署の勝田清人労働衛生専門官、小門隆志厚生労働技官らが、労働災害防止の重要性についてそれぞれの立場から呼びかけ、同支部の姫野労務委員長からは、13年度の安全パトロールの実施結果について報告があった。

午後からは、交通関係映写の後、指宿警察署の郡山靖弘交通課長らが、交通事故の概況報告と、事故の際の救急処置及び蘇生方法などについて人形を使っての実地教習を行った。また、同支部会員の福吉邦男氏（姫野建設㈱）、藤田正文氏（㈱藤田組）による体験発表もあり、仲間の語る体験談に出席者らは、真剣な面持ちで聴講した。

労働災害について再認識した研修会＝指宿市のふれあいプラザなのはな館で

「優良申告法人」を受賞

社員一丸で総合力向上

久永コンサルタント

㈱久永コンサルタント（西久保正人社長、本社・鹿児島市）は3日、鹿児島税務署から申告納税制度の本旨に即した納税を行っている法人に与えられる「優良申告法人」の表彰を受けた。

この表彰は、適正な申告と納税を継続し、他の納税者の模範としてふさわしいと認められる法人に対し表敬状を交付して敬意を表するとともに、今後も適正な申告と納税が行われることを期待するという主旨のもので、同社は20年間（継続4回）にわたってこの表彰を受けてきた。

「継続は力なり」の言葉を掲げる西久保社長は「これからも足腰の強い企業づくりにまい進し、この表敬状授与を一つの節目として日々努力していくとともに、社員一丸となって総合力の向上を目指して頑張っていきたい」と今後の抱負について強く語った。

表敬状を手にする久永会長（左）と西久保社長

姶良町管工事組合がチラシ配布

給水装置の理解を

姶良町管工事組合（原田民義会長）は水道週間の4日、組合員21社と同町水道課職員が参加して、町内の大型スーパー3カ所で給水装置に関するチラシを配布した。また合わせて各配布場所ごとに相談コーナーも設け、町民に水の大切さを訴えた。

同組合では合計1万8000枚のチラシを作成し、町便りを通じて各家庭にも配布することになっている。

当日、同町水道課に集合した参加者を前に原田会長は「町民の皆さんに給水装置を上手に使って快適に暮らして欲しいという願いから、今年は例年の奉仕作業に変えてチラシを作成し、配布することにした。相談コーナーでは簡単な修理なども受け付けるので、用具の準備等、おこたりなく手配してほしい」と挨拶。参加者はずっしりと重いチラシの束を手に、それぞれの担当場所へと出発した。

参加者は買物客などに実施でチラシを手渡していたが、中には「水道週間があることも知らなかった」と言う主婦もいて、いいチャンスとばかりに多くの質問が寄せられた。参加者は給水用具の種類は顧客が自由に選べることや、漏水を簡単に発見する方法など、丁寧に説明していた。

給水装置を理解して、とチラシを配布する参加者＝姶良町の現地で

高齢者宅で点検サービス

150世帯の給水栓等

鹿児島市水道局

鹿児島市水道局は4日、水道週間（毎年6月1日～7日）の行事の一環として実施している給水区域内の70歳以上の高齢者宅約150世帯を対象に給水栓や水洗タンクの点検サービスを実施、各訪問先で感謝された。

同局本庁舎前で行われた出発式では、職員14人を前に、下原弘文水道部長が「毎年恒例の点検サービスですが、住民に不安を与えないよう、コミュニケーションを図りながら、安全には十分に気をつけて行ってください」と挨拶した後、職員らが見送る中、2人1組になって高齢者宅へ出発した。

各訪問先では、台所の水回りや給水栓、水洗タンクなどを入念に点検した後、担当職員が家主に水もれなどの原因について説明を行った。また、花鉢や水切りネットも配布され住民に喜ばれた。

今回の点検は、水道週間行事を通じ、水道について広く市民の理解と関心を深め、水道の健全な発展に寄与することを目的として実施。70歳以上の高齢者宅を対象に、広報誌「市民のひろば」で募集、約150世帯の訪問点検を行うもので、平成元年から始まった高齢者宅訪問点検サービスも今回で14回目、昨年までは1日だけだった実施期間を3日間に延長して6日まで行われる。

点検サービスを前に行われた出発式＝鹿児島市水道局本庁舎前で

商業手形割引
川商ハウス（銀商）
登録番号　県知事（7）第00113号
鹿児島市新屋敷町1番2号　川商ハウス2F
☎(099) 227-2525(代)　FAX 223-9593